

C—58 衿作図に関する研究（2）

愛知淑徳短大 ○清沢 昌子
小林 毬子
今井 和子

1. 構成上，模倣或は経験による部分の多い衿について着装姿をもとにした製図を得ることを目的とし，先ずシヨールカラーを取り上げた。既にスタンにより，その衿腰変化に伴なう数値的な結果を得たが，今回は体型による差違を観察し，その作図の妥当性を検討した。

2. 体型については，肩傾斜，背面の丸みを投影法及

びスライディングゲージを用いて測定した。本学学生51名の中からそれぞれについて特徴あるものを選び、グループに分け着用実験の被検者とした。次に前回同様の作図によって得た衿（衿巾5 cm～9 cm，倒し2 cm～10 cm）のうち，衿腰，衿巾の段階別に17種を取り上げ，伸びの要素を省くため不織布で裁断し，40番ブロードで作った身頃につけたものを着用させた。衿返り線及び衿外まわりが身頃に落着く位置を記録して体型による相違を考察した。

3. 肩傾斜の違いによって衿腰寸法の差は認められぬが，N.P.における衿の返り方に相違があった。背面の丸みの違いによって衿腰寸法にやや差が認められ，丸みの強いものの方が衿腰はやや高くなる。従って前報に示した製図における倒し寸法の求め方は，背面の丸みによってややその数値に考慮を要するが体型にかかわらず使用出来る事が判った。